



ゴーストバスターズ 2

**The Superstars of the Supernatural are back...  
And this time, it's no marshmallow roast.**



©1989 COLUMBIA PICTURES INC. All Rights Reserved

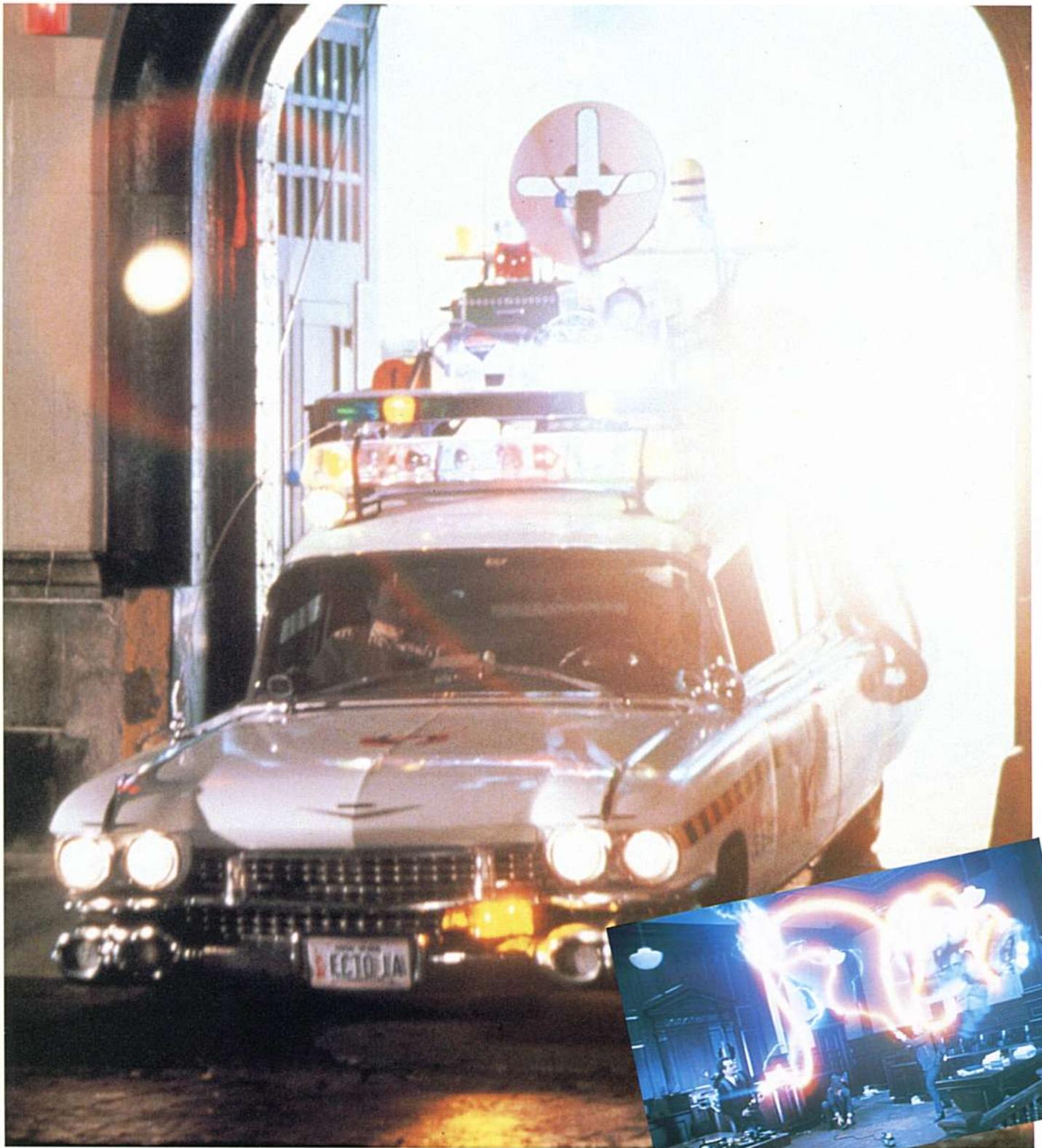


1989年コロムビア映画作品 ●コロムビア トライ・スター映画配給



上映時間 1時間48分





# IVAN REITMAN



## 製作・監督 アイバン・ライトマン

「ゴーストバスターズ2」で製作・監督を兼任するアイバン・ライトマンは、4才の時に、チェコスロバキアからカナダへ移住。芸能界でのデビューはダン・エイクロイドが司会を務めるTVのパラエティ・ショー。その後、ステージ製作に興味を持ち、トニー賞にノミネートされる。カナダでホラー映画など数本を製作・監督をした後、活躍の場をハリウッドに移し、「アニマル・ハウス」で一躍脚光を浴び、「ゴーストバスターズ」の世界的な大ヒットで押しも押されぬハリウッド第6世代の頂点に立つ。「夜霧のマンハッタン」「カジュアル・セックス?」「ツイーンズ」といった軽いタッチのコミカルな作品を得意とする一方で、「ヘビー・メタル」の様なアニメーションをもこなす才人である。

## ニューヨークの地下世界に棲むワニとスライム

作家 亀和田 武

シガニー・ウィーバー扮するディナの赤ん坊を乗せた乳母車が勝手に動き出して、目抜き通りを暴走する。『ゴーストバスターズ2』は、この冒頭のシーンから実に快適なテンポで滑りだす。

「乳母車暴走事件」の原因解明のために、休業状態に追い込まれていたバスターズのメンバーが再び顔を揃え（パトロールの警官とのやりとりとか色々あった末に）、怪異現象の張本人であるスライムを発見する。

スライムは鮮やかなピンク色をした、ネバネバのゼリー状の液体、というか霊体である。このスライムがニューヨークの地下を、まるで川が大規模な下水道のように高速で流れている。

ダン・エイクロイドたちバスターズのメンバーが、車道から網で地下に下りて、このピンク色のスライムの流れを初めて目にするシーンに、私はワクワクしてしまった。

我ながら子供っぽいとは思うのだが、映画であれ小説であれ、私は地下を舞台にしているだけで嬉しくなってしまう。たとえば『グーニーズ』なんて確かにたいして出来の良い映画だとは思えないのだが、作品の半分以上を地下での冒険に割いているというただそれだけのせいで、私は何度も何度も繰り返し、あの映画を見てしまったものだ。

ニューヨークの地下世界に、都市生活者のストレスを養分にして生きる超生命体というオカルト生物が棲息しているというアイデアがなかなかファンタスティックだ。

このアイデアは、例の「ニューヨークの下水道に棲む巨大なワ

ニ」という都市伝説を連想させる。ベットとして飼った小ワニを水洗トイレから流したら、下水道の中は暖かいし、餌にも不自由しないので…というあのパターンのお話である。面白いのは、ワニが食べていたのは小動物と残飯で、スライムのそれは現代人のストレスだったということだ。どちらの話とも、それが存在する理由を合理的に説明しているところが、なかなかオカシイ。

もうひとつ場所の問題をあげておくと、ディナと赤ん坊がスライムに襲われた場所が浴室だったというのも興味深い。バスターズと都市の地下世界は下水管によってつながっているのだ。そういえば、ここ何年間に作られたホラー映画には、浴室でゾンビや悪霊に襲われるものが少なからずあったように思う。これも現代人の深層心理に根ざした恐怖なのかもしれない。

最後にもうひとつ、場所について。後半のクライマックスの舞台となるのは、ディナの職場であり、魔王ビーゴの肖像画も飾ってある美術館だ。

美術館でのオカルト対決というのが、とてもニューヨークっぽい感じがする。もし日本でこういう映画を作ったら、少なくともついでこのあいだまでは東京タワーか国会議事堂、あるいは新宿の高層ビル群という設定だったに違いない。

そこへいくと、アメリカの映画や小説では美術館や博物館が、ちょっとした背景に使われることが多いような気がする。私の好きな『殺しのドレス』という映画でも、犯人と被害者の最初に出会う場所が確かマンハッタン美術館だった。

東京もこの1、2年、金余り現象のせいか美術館やホールのオープニング・ラッシュだから、いままでとは少し目先の変った場所を舞台にしたホラー映画が作られるようになるかもしれない。



ブーム再来！ 5年前、全世界を驚異的な興奮の渦に巻き込んだ「ゴーストバスターズ」がまったく新しい装いで帰ってきた！ 89年6月16日に全米2700館で公開され、オープニング3日間（6/16～18）で、コロンビア映画史上最高の29,472,000ドル（約42億円）という驚異的な新記録を樹立。誰もが待ちに待った「ゴーストバスターズ2」の登場だ。今回の見所は17世紀に大量虐殺の限りを尽くし105才まで生き続け、毒をうたれ体をバラバラにされた後“霊界の大魔王”となったビーゴが率いるニュー・ゴーストたちと、ゴーストバスターズとの息づまる対決だ。その数も、その恐しさも、その凄さも遙かにスケール・アップしたニュー・ゴーストたちが再びはびこるニューヨーク・シティ。その地下深くに都会の間人たちのストレスが“スライム化”して流れるピンク・カラーのマジック・リバー。最新鋭ハイテック・メカさえ受け付けない、この巨大な精神エネルギーの塊りと大魔王ビーゴの陰謀を我らがゴーストバスターズは果たして撃ち砕くことが出来るのか？ そしてその方法とは？ 〈善〉と〈悪〉のスーパー・“バスターズ”・ウォーズ。クライマックスには前作のマシュマロ・マンを凌ぐビッグ・キャラクターも登場。全てが前作を遙かに凌ぐパワーで迫るまさに、正月No.1のスーパーナチュラル・スペクタクル映画である。

製作・監督は「夜霧のマンハッタン」「ツインズ」等で、今や大ヒット・メーカーとなったアイバン・ライトマン。脚本は前作同様にハロルド・ライミスとダン・エイクロイドのコンビ。製作総指揮は「ブルース・ブラザーズ」「スパイ・ライク・アス」のバーニー・プリルスターイン、「夜霧のマンハッタン」のジョー・メジャック、そして「ヘビー・メタル」のマイケル・C・グロスのスマッシュヒット・トリオ。撮影は「タクシー・ドライバー」「ラストワルツ」のマイケル・チャップマン。美術は「カラーパブル」のポー・ウェルチ。特殊視覚効果スーパーバイザーに「未知との遭遇」「E.T.」「ヤング・シャーロック/ピラミッドの謎」のデニス・ミュレン。SFXはジョージ・ルーカスの率いるSFX工房として有名なILM（インダストリアル・ライト・アンド・マジック）、「007ネバーセイ・ネバーアゲイン」のジョン・ダイクストラが創設したアポジー、そして「トワイライト・ゾーン/超次元の世界」のピーター・クーランのVCEと、ハリウッドを代表する3大SFX工房が参加。音楽はランディ・エデルマン。レイ・パーカーJr.の“ゴーストバスターズ”に加え、若きスーパースター、ボビー・ブラウンが歌う全米ヒット曲“オン・アワ・オウン”が本作のテーマ音楽としてダイナミックな彩りを添える。

出演はお馴染み、ピーターにビル・マーレー、レイモンドにダン・エイクロイド、イゴにハロルド・ライミス、ウィンストンにアーニー・ハドソンと、ゴーストバスターズに扮する4人が揃って再登場。またピーターの恋人ティナ役のシガニー・ウィーバー、会計士ルイスのリック・モラニス、秘書のジャニーンのアニー・ボッツも健在だ。そして、新キャラクターとして悪の大魔王ビーゴに個性派ウィルヘルム・フォン・ホンブルグ。ビーゴに仕えるヤノシュに「ソフィーの選択」のピーター・マクニコル。ティナの愛するベビー、オスカーには「ツインズ」顔負けのウィリアム・T・デュッセンドルフとヘンリー・J・デュッセンドルフ二世の双子が愛嬌のある演技を演じている。また、ゲストとしてライトマンの家族やボビー・ブラウンも登場していることも話題だ。





魔神ゴーザの魔手より世界を救ったゴーストバスターズは、破壊したビルや公道の修理代が払えず、ニューヨーク市より営業停止処分を受け解散してしまった。時は流れ、5年の歳月が経った。ピーター・ベンクマン（ビル・マーレー）は、TV番組「ピーターの超能力アワー」でホストを、レイモンド・スタンツ博士（ダン・エイクロイド）はオカルト書店を経営するかたわらウィンストン・ゼッドモア（アーニー・ハドソン）と組んでゴーストバスターズの出張パフォーマンスを、イゴン・スベングラ博士（ハロルド・ライミス）は、人間の超精神パワーについての研究を続けていた。事件の直後、自分の命を救ったピーターに求婚したディナ・バレット（シガニー・ウィバー）は、意外にもピーターではなく、別な男と結婚し、息子のオリバーを産むが、今は離婚し、マンハッタン美術館の絵画修復部に務めながら、子連れのシングル・ライフを満喫していた。

ある日、ディナの目の前で、8ヵ月になるオスカーを乗せた乳母車が一人で動き出すというショッキングな事件が起こる。ディナは事件の真相解明のため、ピーターには内緒でという条件付でイゴンに調査を依頼する。しかし、ピーターはディナからの依頼だということを知り、この調査をきっかけにヨリを戻そうと必死。ディナは呆れ顔で対応する。オスカーを乗せた乳母車の止まった位置で強い霊気を測定したイゴンは、電話修理工に化けて、車道をボーリング。そしてレイモンドがその中に潜って見たものは、今は廃止された旧NY地下鉄にスライム化した霊体が、“巨大な河川”となって流れるマジック・リバーだった。しかし、この調査のためにニューヨーク市全体が停電に見舞われるという事件が起き、再びバスターズのメンバーたちが、心霊調査に乗り出したとニューヨーク市はカンカン。器物破損、業務停止命令違反などの容疑で逮捕、裁判にかけられたバスターズ。彼らの雇った弁護士は、テラー・ドッグと化してゴーザに利用された時にバスターズによって救われたルイス・タリー（リック・モラニス）だ。口の回らないルイスの弁護は一笑に付されたばかりか裁判長の怒りをかい、判決は有罪。懲役に加えて罰金をも課した判決文を怒りも

露わに読む裁判長の声に、レイモンドがマジック・リバーから採取したスライムのサンプルが反応。なんとその中から出てきたのは以前、裁判長に死刑判決を言い渡された、極悪人スコレーリ・ブラザーズのゴーストだった。裁判所はパニックに陥り、裁判長はピーターたちにゴースト退治を嘆願。ピーターは無罪判決を条件にスコレーリ・ブラザーズを退治する。

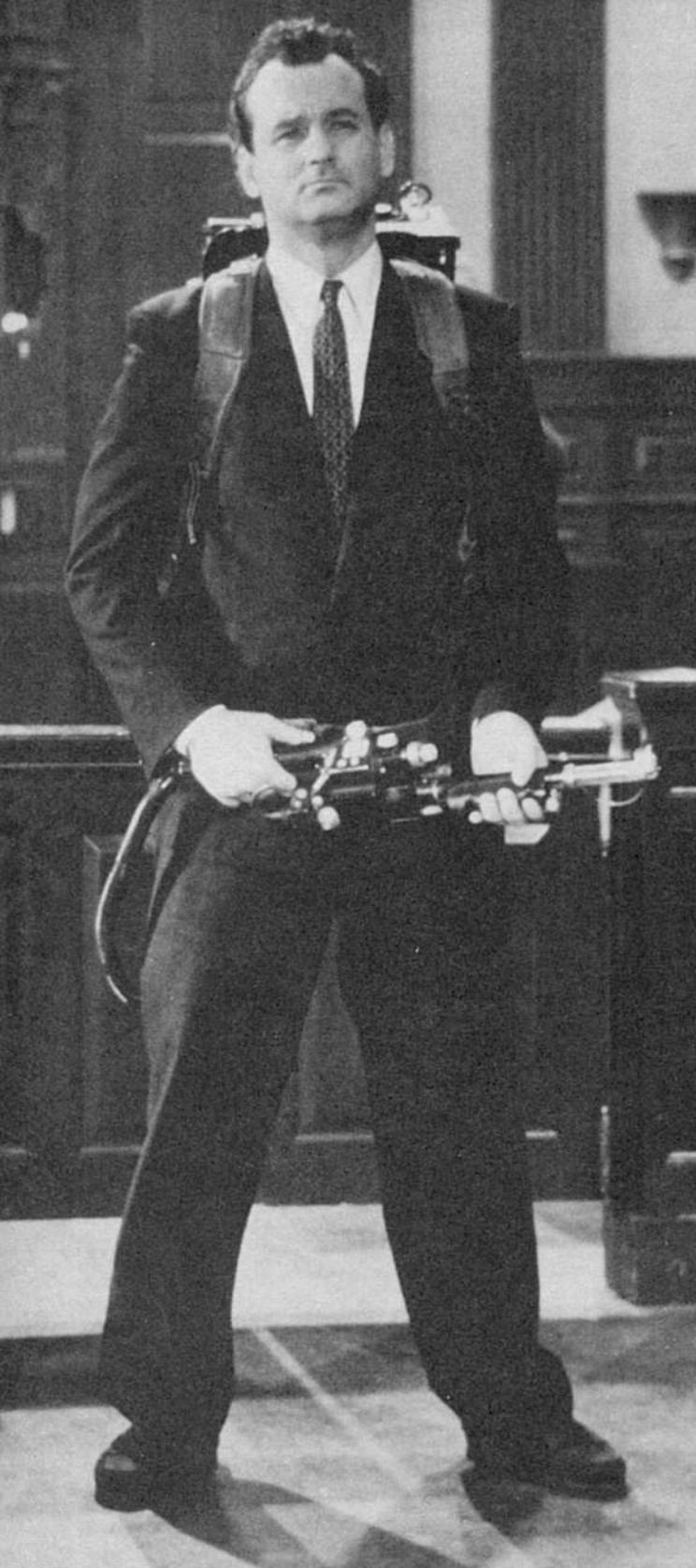
かくして、ゴーストバスターズは5年ぶりに再結成された。経理にルイスが抜擢され、秘書としてジャンーン・メルニツ（アニー・ボッツ）が戻ってきた。バスターズのトレード・カーの“エクトモービル1”もバージョン・アップされ“エクトモービル1A”と改名。彼らは以前にも増してNYの、いや世界の人気者に復活したのだ。ゴースト退治の傍らで、イゴンとレイモンドはマジック・リバーを流れるスライムの研究に没頭。やがて、スライムの正体は、人間の怒りや欲望、憎悪などの物体化したもので、人間の精神状態に敏感に反応することが分かった。スライムの身近にいる人間が怒れば、スライムは凶暴性を持ち、健やかな気持ちを抱けば穏やかになるのだ。

そして、ディナがオスカーとともにバスタブから流れ出たスライムに襲われるという事件が発生。ディナはオスカーを連れてピーターの家に居候することになった。しかし、大晦日の夜、ディナの上司でディナを熱愛のヤノシュ・ポーハ教授（ピーター・マクニコル）は、美術館に飾られた“カルパチアのビーゴ”の肖像画に宿る大魔王ビーゴの霊に、ビーゴ復活の生贄としてオスカーを捧げることを命じられる。やがて霊界から悪魔の乳母車がピーターの家に差し向けられオスカーは誘拐されてしまう。一気に精気を取り戻したビーゴは、マジック・リバーからスライムを吸い上げ、ディナとオスカーを呑み込んだ美術館は巨大なスライムと化し、ゴーストたちは一斉に決起し街中を暴れ回り、世界は再び暗黒の時代を迎えようとしていた。その頃、我がゴーストバスターズの一行は、ニューヨーク市長秘書の陰謀で精神病院の中に入れられていた……。

## ストーリー







## 「素敵なビジョンの連続に感謝感激」

他の人はどうか知らないが、私の場合、映画を見ている最中に、背筋に沿ってブルブルと戦慄みたいなもの走るときがある。ひどくなると、ゾゾッと鳥肌さえ立ってきってしまう。

恐怖映画の話ではない。別に怖くて震えるわけではないのだ。

なんでもいいんだが、普段の生活では滅多に味わえない夢のシーンのようなうっとりする光景とか、ワクワクと心の芯まで弾み出してしまいそうな楽しい場面に出会うと、体がそんな反応をするのだ。体が感じてしまうと言うとなんか変だが、まあ体で感じるエンターテインメントのパロメーターみたいなものらしい。

全体のストーリーより、個々のシーンの突発的魅力に反応するようだ。

それが、この映画ではかなりピンピン来てしまった。なんだか嬉しくて、シーンによっては泣きたいくらい幸せになってしまうのだ。

まずは、お馴染みの景気のいい歌と音楽でワクワクしてしまった。「ゴーストバスターズ！」

リズムカルに一声掛かると、心浮き浮き、思わず手でも叩いて躍り出した気分になる。バージョンアップしたというか、一段と派手になったネオンチカチカのトレードカーがマンガチックにさっそうと飛び出していくと、ヨォッ！待ってましたの世界だ。

タイミングがピッタリはまってくるから、文句なしに楽しくてゾクリと来るのだ。巧いなあと惚れ惚れしてしまう。

軽い軽い面々に、あくまで荘厳な石造りの建造物が重厚にドンと迫ってくるのもゴージャスで気持ちがいい。今度は美術館、巨大なニューヨークの街の美しさも大切な背景になっている。

わざとらしくもオモチャっぽい車や小道具の動き回る、その背後の風景のシックに落ち着いた美しさ。ウウンとまたそこで唸ってゾクゾクッと感じてしまった。

いまだきお化けの出そうな場所という、たしかに大都会の地下深く忘れられた地下鉄のトンネルなんてのは説得力がある。

都会というのは、なんととっても信じられないくらい莫大な数の人間が、日夜命懸けで泣いたりわめいたり楽しんだりしている場所だ。そういうドロリとした感情の不燃性廃棄物がヘドロ化して地下に溜まり、スライムの川になるなんて、わかる感じはする。

ゴーストバスターズの面々も、落ちこぼれ学者から、転職したり失恋したり。案外彼らの捨てた感情廃棄物も、ちょっとコミカルなピンクのスライムになって流れていたりするのだろう。

みんな相変わらずで、久しぶりに顔が揃うだけで浮き浮きするものがあった。

白けたパーティでこどもたちに馬鹿にされたり、かみ合わないインタビューを退屈そうにしていたり、気まずい再会があったり。初めの登場の仕方に、なんか変に生々しい生活臭が出ていたりするのも、その先の見当がついているだけにニヤリと笑って楽しめてしまった。

みんな個性的だが、中でも特に強烈なキャラクターという、出てきただけで思わず嬉しくなって笑ってしまうルイスだろう。

前回、犬になった彼が、弁護士として登場したときには思わず拍手をしたくなってしまった。相変わらず悲惨なキャラクターの彼が、びったりの相手とそれなりに楽しいときを過ぎたのも嬉しい。

外国人らしい美術館の教授ヤノシユも、なかなか奇妙に怪しげで印象が強かった。特に赤ん坊をさらいに来るときの姿は、なんかもう幸せになってしまうほど不気味だった。さらわれる赤ん坊のオスカーも、私が個人的に気に入ってしまったキャラクターだ。大写し





になったときの彼の顔は、なんともあどけなくて屈託がなくて、立派にゴーストバスターズのキャラクターだった。

でも、なんといっても一番なのは、SFXを贅沢に駆使したお化けの面々だろう。

今度は一層パワーアップで、ディズニーランドもびっくりの素敵にファンタジックな夢の世界が広がった。不意に現われる短いシーンにウウンと思わず感動してしまうような贅沢な光景がちりばめられている。私の体のゾクゾクも、SFXシーンにバンバン反応してしまった。

お化け映画はあくまで美しくきれいでなくちゃイヤ、というのが私の持論である。あとあと思い出したくもないような吐き気のするシーンばかりでは、なんのために映画館へ行ったのかわからない。

美しい場面の中に、ときどきゾッと怖いものが入るから妖しい雰囲気が出ていいのだ。初めから終りまで汚いままじゃ、ムカムカはあってもゾクゾクは来ない。

まあ、そういうきれいなお化け映画が意外に少ないのは、私の持論が当てにならないせいかもしれない。この映画のお化けたちは、日ごろのそういうフラストレーションを満たして余りあるものがあった。

どうして、こんなに素敵に気のきいたシーンを大判振るまいできるんだろう。

特にはっとさせられたのは、タイタニック号、それが一瞬で終わってしまうところがなんとも贅沢で、心魅かれてしまった。妖しい悪夢の断片といった雰囲気か。

もったいない、もっとみたい。という気にさせて消えるところが贅沢なものなんだろう。

ジョギングするお化けってのも、いかにもニューヨーカーらしい生々しいものがあつた。フム、これはと思ったその瞬間にはもう次のシーンに移っていたりする。

もったいない……また、もう一度自分で見に行くしかないか。

お化けたちは、オーラで淡く輝いているのでよけいに素敵だった。不気味で美しいものというのは一層ゾクリと来る。一作目でもそうだったが、この映画のお化けたちは実に丹念できれいなのだ。

楽しい方のお化けたちも、健在だ。例の大食いモンスターなんて、得味は知れないが、もうすっかりファミリー感覚だった。

悪ヒーロー、ピーゴも不気味なおアコで頑張っている。二代目マシュマロマンの大魔神とでも呼びたい正義の味方もワクワクさせてくれた。私の場合、ピーゴより、その大魔神の方が不気味に感じられたりしたが、それはまあ感じ方の問題だろう。

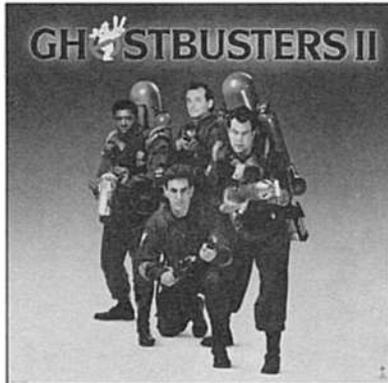
善と悪の対立だの、ラブロマンスだのという込み入った話はさておいて、シーンシーンのファンタジックな幻想世界にすっかり酔ってしまった。

はかないビジョン(幻視風景)を画面一杯全編にちりばめた、これは贅沢で素敵な夢のプレゼントである。



# MUSIC

## GH<sup>O</sup>STBUSTERS II



## ゴーストバスターズ 2

From the Columbia Motion Picture オリジナル・サウンドトラック  
●22P2-2865

- 1 オン・アワ・オウン(ゴーストバスターズ2のテーマ)/ボビー・ブラウン  
ON OUR OWN—Bobby Brown.
- 2 スーパーナチュラル/ニュー・エディション  
SUPERNATURAL—New Edition
- 3 プロミスド・ランド/ジェームス・J.T.・テイラー  
THE PROMISED LAND—James "J.T." Taylor
- 4 ウィアー・バック/ボビー・ブラウン  
WE'RE BACK—Bobby Brown.
- 5 スピリット/ダグ・E・フレッシュ&ザ・ゲット・フレッシュ・クルー  
SPIRIT—Doug E. Fresh & The Get Fresh Crew

- 6 ゴーストバスターズ/RUN D.M.C.  
GHOSTBUSTERS—Rap by RUN-D.M.C.
- 7 フレッシュ・ブラッド/オインゴ・ボインゴ  
FRESH 'N BLOOD—Oingo Boingo
- 8 ラヴ・イズ・ア・カンニバル/エルトン・ジョン  
LOVE IS A CANNIBAL—Elton John
- 9 フリップ・シティ/グレン・フライ  
FLIP CITY—Glenn Frey
- 10 ハイヤー・アンド・ハイヤー/ハワード・ハンツベリー  
HIGHER AND HIGHER—Howard Huntsberry

### ●ボビー・ブラウン

ソロ第1作『キング・オブ・ステージ』(86年)がスマッシュ・ヒット。続くセカンド『ドント・ビー・クルエル』(88年)が見事6週間No.1となり、400万枚を突破。これまでにシングル・カットされた『ドント・ビー・クルエル』『マイ・プリロガティブ』(全米No.1)『ロニ』『エヴリ・リトル・ステップ』はすべてトップ5入りのスーパースター。ボストン出身の20歳。

全米アルバム・チャート6週間No.1に輝き、12週間連続でTOP2をキープし続けていた驚異のビッグ・セラー・アルバム『ドント・ビー・クルエル』は、すでに400万枚を突破。今や、マイケル・ジャクソン、プリンスに続くスーパースターとして絶大な人気を誇り、全米中に大センセーションを巻き起している。19歳でのアルバム・チャートNo.1は、10代の男性アーティストとしては、ステイービー・ワンダー以来25年振り、マイケルもプリンスも成し得なかった史上3人目の快挙である。

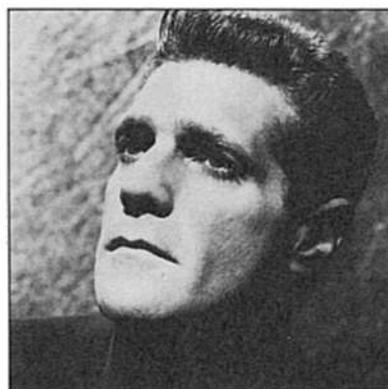
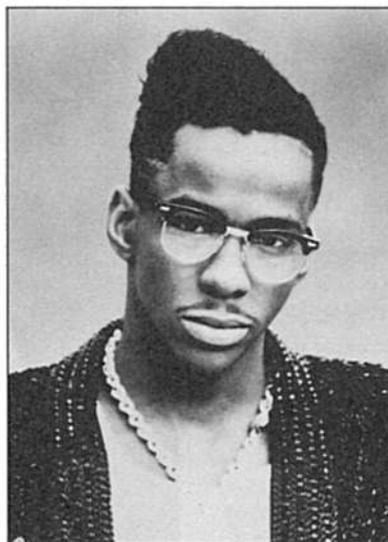
### ●ニュー・エディション

そのボビーを生んだボストン出身の若きヴォーカル・グループ。リード・シンガー、ラルフ・トレンスヴァントを中心とする5人組で、デビュー曲『キャンディ・ガール』(83年)のビッグ・ヒットで人気を確立。その後大人のグループへの脱皮を計り今日に至る。新作『ハート・ブレイク』(企画ものを含め6作)はプラチナに輝いている。同作品からソロ経験もあるジョニー・ギルがボビーの後任に参加。彼はこの曲でもディープなヴォーカルをしっかりと聴かせている。

### ●ジェームス・J.T.・テイラー

MCAレコードの今後のブラック部門を背負うはずの期待の人、J.T.は、いうまでもなくEM&Fと並ぶファンキー・グループ、クール&ザ・ギャングのリード・シンガーを務めていた人。同グループには79年から参加し『レディーズ・ナイト』『セレブレーション』『ジョアンナ』といったヒット曲で、名実共にトップの座を獲得。88年初頭にソロ活動のため独立。映画『タップ』サントラ盤ではレジーナ・ベルと組み『All I Want Is Forever』で参加している。

●ダグ・E・フレッシュ&ザ・ゲット・フレッシュ・クルー  
ラッパーのダグ・E・フレッシュにバリー・ビー、チル・ウィルという布陣。ラップのカッコイキング・エイジを代表するチームで、インディ・レーベル、リアリティ・レコードから『Play This Only At Night』(87年)や『D.E.F & Doug E.Fresh』(89年)といったヒットを連発。ニュー・アルバム『The World's Greatest Entertainer』が現在ロングセラーとなっている。



### ●RUN D.M.C.

レイ・パーカーJr.のあのテーマ曲を、RUN D.M.C.がラップで決めるなんて、誰が思いついたのだろうか? エアロスミスとジョイントした『ウォーク・ジス・ウェイ』のヒットと、同曲を含む3rdアルバム『レイジング・ヘル』のNo.1で、ラップ/ロック界の頂点に立った3人組だ。ラップをかけ合うD.M.C.に、DJのジャム・マスター・ジェイという構成のタフ・ガイズである。

### ●オインゴ・ボインゴ

ロサンゼルス出身のニュー・ウェイブ系バンド。80年にISRレコードよりシングル『Oingo Boingo』でデビュー後、A&Mを経て現在MCAに所属。地元ではライブ・バンドとして知られているが、世界的には『ときめきサイエンス』『バック・トゥ・スクール』などのサントラでおなじみ。中心人物ダニー・エルフマンもソロで映画音楽の仕事が多く、『世にも不思議なアメージング・ストーリー』『ビートルジュース』『3人のゴースト』といった話題作を手がけている。

### ●エルトン・ジョン

アルバム『エンブティ・スカイ』(69年)でデビュー後、この人の音楽活動そのものがポップ・ミュージック史といえるほどの偉大なシンガー&ソングライター。近作『REG・ストライクス・バック』を発表すると共に、オリーブ・ニュートン・ジョンをプロデュースしたり、アレサ・フランクリンと『Through The Storm』をデュエットするなど、相変わらず多彩な活動を続けている。

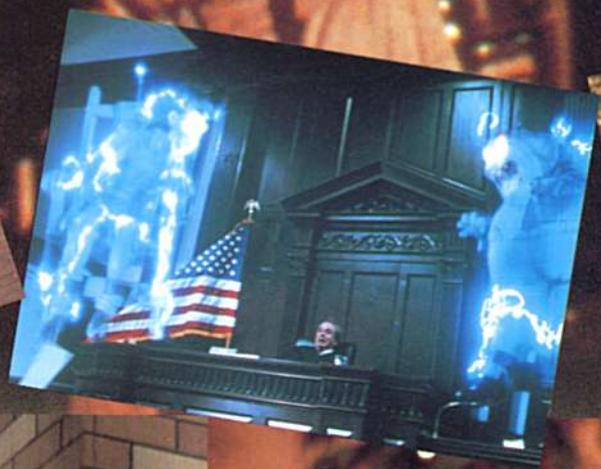
### ●グレン・フライ

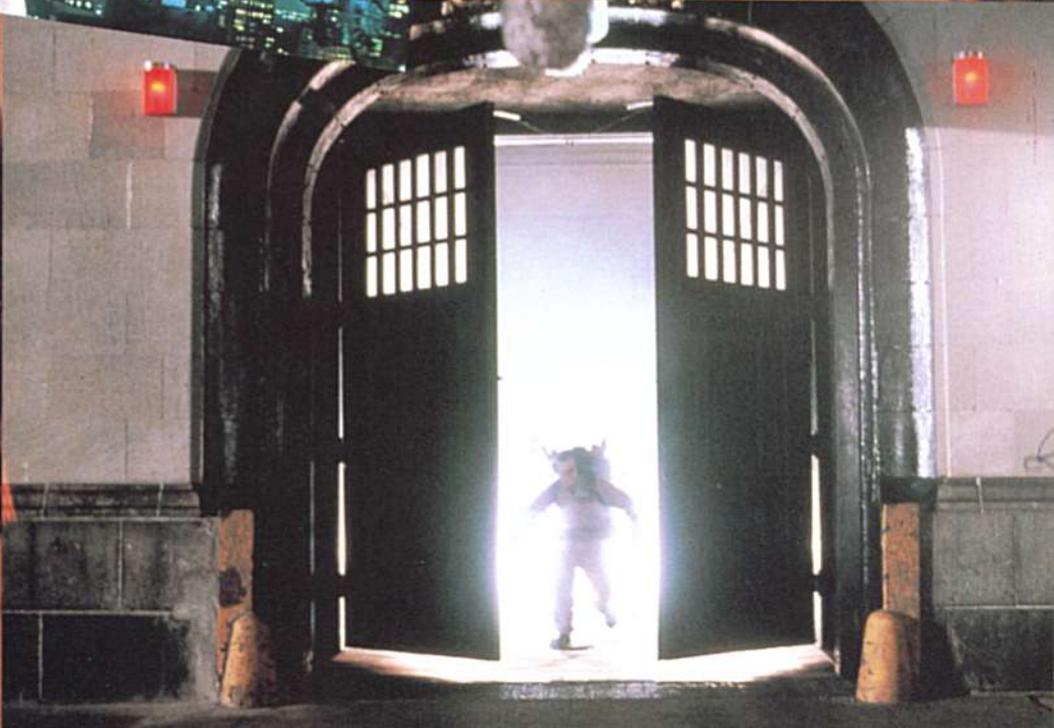
元イーグルスのナイス・ガイ、グレンは先に4年ぶりのソロ・アルバム『ソウル・サーチン』を発表したばかり。映画とも因縁が深い人で『ビバリーヒルズ・コップ』用にレコーディングした『ヒート・イズ・オン』は爆発的なヒットになった。『フリップ・シティ』も同曲を彷彿させるキャッチーな出来で、シングル化を期待したいものだ。

### ●ハワード・ハンツベリー

映画『ラ・バンバ』でジャッキー・ウィルソンを演じていたのが他ならぬ彼。先輩ウィルソンの流れをひくあったかなヴォーカルを得意とするのだが、ここではコマーシャルな魅力を打出している。88年にMCAからアルバム『With Love』をリリースしている。











# CAST PROFILE

## BILL MURRAY

### ビル・マーレー

今回はちょっとダンディなピーター・ベンクマンを演じたビル・マーレーは1950年イリノイ州に生まれる。シカゴの劇団に加入したことが俳優を志すきっかけとなったのだが、驚くことにこの時点ですでにダン・エイクロイドと共演の経験がある。ナショナル・ランプーン誌主催、アイバン・ライトマン製作のオフ・ブロードウェイ・ミュージカルに出演したことがきっかけで、TV「サタデーナイト・ライブ」のレギュラーの機会を得、お茶の間コメディアンの人気スターとなる。この番組で脚本を共同執筆したことにより、エミー賞を受賞。その作家性も注目を浴びる。映画ではライトマンに「ミートボール」「パラダイス・アーミー」「ゴーストバスターズ」の3本で起用されている。最近の主演作は「3人のゴースト」だが、ゲスト出演の経験も豊富で「トゥッシー」「リトルショップ・オブ・ホラーズ」等もある。

### ダン・エイクロイド

レイモンド・スタンツ博士を演じるとともに脚本をライミスと共同執筆したエイクロイドはカナダ生まれ。マーレーと同じく「サタデーナイト・ライブ」の脚本でエミー賞を受賞。映画では主演第2作の「マイク氏のモンド・ビデオ」でもマーレーと共演。「ブルース・ブラザーズ」の世界的ヒットによって、故ジョン・ベルーシと共に一躍コメディ・スターダムにのし上がった。その後も「ネイバーズ」「大逆転」「ゴーストバスターズ」「眠れぬ夜のために」「スパイ・ライク・アス」といったライトマンとジョン・ランディス監督によるコメディ路線が多い。近作は「花嫁はエイリアン」。脚本家としては「ドラッグネット/正義一直線」。

## DAN AYKROYD



# HAROLD RAMIS

## ハロルド・ライミス

イゴン・スペンダラー博士役のハロルド・ライミスは、本来は脚本・監督業で才能を発揮してきた。1944年、イリノイ州生まれ。プレイボーイ誌のプレイメイト・インタビューの担当からオフ・ブロードウェイの「ナショナル・ランブーン・ショー」で脚本家兼俳優に転身した変わり者である。「アニマル・ハウス」の共同執筆でスクリーン・デビュー。その後、「ミートボール」「ボールズ・ボールズ」で脚本・監督を手がけ、「ヘビー・メタル」で声優を務めたりもしている。「ゴーストバスターズ」以降の出演作は「赤ちゃんはトップ・レディがお好き」のみ。もっぱら「バック・トゥ・スクール」「私立ガードマン」「クラブ・パラダイス」などの脚本・監督業で手腕を発揮している。



## シガニー・ウィーバー

子連れのダイナを演じるシガニー・ウィーバーは、シリーズもの出演では「エイリアン2」に続いて、これが2本目。ウディ・アレンの「アニー・ホール」で映画デビュー。その翌年、「エイリアン」のリプリー役で注目され、「目撃者」「危険な年」「世紀の賭け」と幅広い役柄で演技派に転向。最近では「愛は霧の彼方に」と「ワーキング・ガール」でアカデミー賞にノミネート、ゴールデングローブ賞を受賞したばかり。役柄によって自分のイメージが固定されることを嫌がって、一時「同じ役は2度と演じない」と宣言したが、どうやら「エイリアン」と「ゴーストバスターズ」シリーズは違うようだ。最新作は「エイリアン3」。

# SIGOURNEY WEAVER





## リック・モラニス

前作でテラー・ドッグと化すが、ゴーストバスターズによって人間に戻ることが出来たルイス。舌が回らず、情け無い風貌のタリーをコミカルに演じているが、今やハリウッドの代表的なコメディアンであるリック・モラニスだ。SCTVの脚本でエミー賞ノミネートの経験を持つ彼の映画デビューは1983年。セリフのある準主役を得たのが、「ゴーストバスターズ」と「ストリート・オブ・ファイアー」でのマネージャー役。以後「クラブ・パラダイス」「ワイルドライフ」等のコメディに積極的に出演。「スペースボール」「リトルショップ・オブ・ホラーズ」では主役を演じている。

# RICK MORANIS

## ERNIE HUDSON

### アーニー・ハドソン

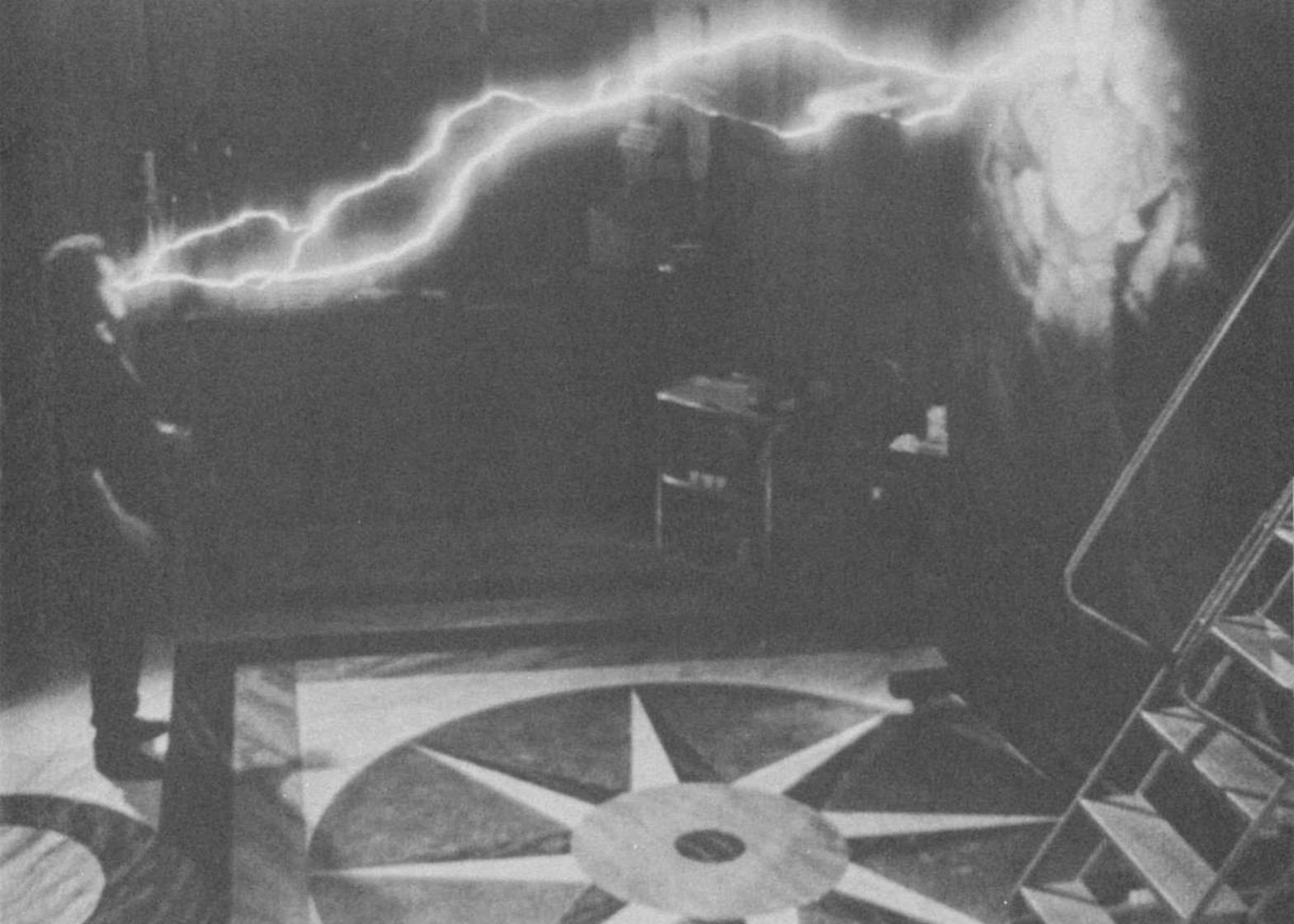
ゴーストバスターズ唯一の黒人メンバー、ウィンストン役のアーニー・ハドソンはミシガン州出身。ブラック・シアター活動を続けるうちに、TV界に進出。「超人ハルク」「特攻野郎Aチーム」等のTVシリーズにゲスト出演の他、「ルーツ」「特攻大戦略/ファイナル・ミッション」などのTVムービーの準主役を獲得。この頃、「メーン・イベント」で端役を掴み、「ジャズ・シンガー」「スペースハンター」「セカンド・チャンス」を経て、前作「ゴーストバスターズ」のウィンストン役でマスコミから注目を浴びる。最近作は「ウィーズ」「リバイアサン」。



## アニー・ポッツ

変な声、変なセンスの持主で、まさにゴーストバスターズの秘書ピッタシのジャニーンを演じるアニー・ポッツ。舞台女優として、地道な活動を続けていた彼女が注目されたのは、もちろん「ゴーストバスターズ」だ。彼女独特の変わった持味は、その後の「クライム・オブ・パッション」「プリティ・イン・ピンク/恋人たちの街角」等で高い評価を受けた。

# ANNIE POTTS



## 「ゴーストバスターズ2」に集結した世界最高のSFX陣

### ■ILM "Industrial Light & Magic"

ジョージ・ルーカスが「スター・ウォーズ」製作のため創設したルーカス・フィルムの特特殊効果部門。新手法の映像技術の開発をメインにした現在最もハイテクなSFX工房である。前作「ゴーストバスターズ」でデビューしたボス・フィルム・コーポレーションのリチャード・エドランド、アポジーのジョン・ダイクストラ等、現在ハリウッドの第一線で活躍中のSFXスーパーバイザーを数多く輩出していることでも、そのクオリティの高さは誰の目にも明らかだ。「ゴーストバスターズ2」で特殊視覚効果スーパーバイザーを務めているデニス・ミュレンは「コクーン」に代表されるリアルなSFXで評価が高い。また、今回は登場するゴースト・キャラクターの動きに関するSFXで、外部からモデル・アニメーションの神様として名高い「おかしなおかしな石器人」等で知られるデビッド・アレンを「ヤング・シャーロック／ピラミッドの謎」に続いてゲスト・スタッフとして起用している。主な作品に「E.T.」「バック・トゥ・ザ・フューチャー」「インディ・ジョーンズ／最後の聖戦」。

### ■アポジー "Apogee Inc."

「スター・ウォーズ」でスピード感溢れる戦闘シーンのSFXを成功させたSFXカメラ「ダイクストラ・フレックス」の開発者であるジョン・ダイクストラがルーカスの元を離れて創設したSFXスタジオ。「宇宙空母ギャラクティカ」でデビュー後、「007ネバーセイ・ネバーアゲイン」「スペース・バンパイア」「ナビゲイター」等を手がけ、空中を背景にしたSFXでは定評がある。また、ミニチュア・モデルメーカーとして「スプラッシュ」「ビートルジュース」等のSFXスーパーバイザーや、最近では脚本家・監督としても知られるウィリアム・ショートに協力を依頼している。

### ■VCE "VCE, Inc."

アポジー、「ガバリン」のドリーム・クエスト・イメージズ、「スペースキャンプ」のバン・ダー・ビアー・フォト・エフェクト等のスタッフが、新しいSFXシステムの開発を求めて集結し、創設した新しいSFXショップ。「トワイライト・ゾーン／超次元の体験」といった大作から「処刑ライダー」の様な小品に至るまで、数多くの作品でSFXを担当。アニメーション効果とマット・ペインティングを得意とし、「サイコ3／怨霊の囁き」「砂の惑星」等で高い評価を受けた、ハリウッドで最もエキサイティングな映像技術集団である。





## —— ニュー・ゴースト / キャラクター紹介 ——

### ■キング・オブ・ゴースト / ビーゴ VIGO

17世紀に大量虐殺の限りを尽くし、105才まで生き続け、毒殺された悪徳非道人。そして「霊界の大魔王」に変貌をとげた。オスカーを生贖として現世に蘇り、世界を滅ぼそうとする。

### ■ピンク・スライム PINK SLIME

都会の人間のあらゆる感情が物質化した幾何学生命体。浮遊霊、自縛霊、悪霊、背後霊等、あらゆる霊体のエクトプラズムの恰好の住処ともなっている。人間の感情に敏感に反応し、けっこう御機嫌屋のゴーストである。

### ■スコレーリ・ブラザーズ THE SCOLERI BROTHERS

数年前に電気椅子送りとなったイタリア系ニューヨーク・マフィアのボスのゴースト。生前の性格をそのまま引き継いだ悪霊で、周囲にあるあらゆるものを破壊し尽くす暴れ者。ピンク・スライムの精神反応に喚起されて、この世に甦った。

### ■霊界ばあとお魔界乳母車 THE OLD LADY GHOST & HER CART

宙を舞い次々と生贖となるベビーをさらう魔界の子守役（実はヤノシユにのり移ったゴースト）。子供たちの脳波を通じて優しい言葉を投げ掛け、赤い眼からは催眠光線を発し、子供を自分の奴隷にしてしまう。オスカーも彼女の餌食となって……。

### ■ジョギング・ゴースト GHOST RUNNER

走る / 走る / 走る / 朝から晩まで、24時間走りつめの自縛霊。朝の海岸コースで超ボイン娘の揺れる胸元を横目で見ながらのジョギングが、楽しくて仕方のないどうしようもないヤツなのだ。

### ■ミンクス MINKS

毛皮にされたミンクの霊が集合体となり、毛皮に乗り移り復活したものの。この冬のニューファッションは、要注意だ。

### ■シアターズ・ゴースト THEATER'S GHOST

ニューヨークの劇場から忽然と飛び出した、人間の喜怒哀楽を一身に受けたゴースト。足が無く、空中を彷徨い、高笑いとともにスグリーンから飛び出し観客を罵らす。

### ■アグリー・リトル・スパッド THE AGRY LITTLE SPAD

食欲旺盛にしてヘビー・スモーカー。全身グリーンの身体からベトベトのスライムを撒き散らすコミカルなゴースト・キャラクター。「ゴーストバスターズ」では、敵役だったが、今回は彼らを手助けもするグッド・キャラクターに転身 /

### ■幽霊列車 GHOST TRAIN

1920年にニューヨークの地下鉄で起こった大事故。しかし、その犠牲者たちの怨念を乗せた列車はその後も止まることを知らなかった。今は廃坑と化した旧地下鉄の中を管笛を鳴らしながら何往復も運行を続けている。実体はないので、直接危害を与えることはないが、猛突進してくる幽霊列車の迫力に、ゴーストバスターズもタジタジ。

### ■アーチーズ・ビッグ・モンスター ARCH'S BIG MONSTER

大魔王ビーゴの呼び掛けに、突如として登場したゴースト、というよりビッグ・モンスター。全長17メートルの巨体はマシュマロ・マンに勝るとも劣らない。マンハッタンを歩きまわり、街を破壊する。

# プロダクション・ノート

## ■続編大嫌い俳優たちが全員集合!

普通、俳優というものはイメージの固定を嫌がり、続編に出たがらない。それが大ヒット作のPART2なら、尚更だ。

「エイリアン」シリーズですでに続編ものの経験のあるシガニー・ウィーバーですら、「エイリアン2」では前作とは違ったキャラクター像ということで決然と出演を承諾したというのは有名な話。彼女の他に、続編には絶対に出演しないことで有名なビル・マーレーやダン・エイクロイドも「ゴーストバスターズ2」出演には、積極的に協力したという。彼らの「ゴースト〜」の続編への出演理由は皆「あれだけ愉快なメンツは、後にも先にも「ゴースト〜」以外に揃わない」と思ったからだそうだ。

## ■ILM対スライム 「ゴーストバスターズ2」のスライム戦争勃発?

ILMが最も苦労したのは、マジック・リバーを形成しているスライムのSFX。総量10万ガロンにも及ぶ、スライムが「ゴーストバスターズ2」で登場。彼らはまず、大スターたちのために「人畜無害」なスライムの開発を余儀なくされた。結局、スライムは野菜がベースの液体メンチルを主成分に、着色料を加えたものに決定。これにはアレルギー性成分はなく、目に入っても簡単に洗い流せるもの。また、被服に粘着させても乾けばはがれるというスグレもの。シガニー・ウィーバーを襲うスライムは、これでもいいのだが、マジック・リバーでの演出に、ILMのデニス・ミュレンはその撮影に最も時間をかけねばならなかった。まず、マジック・リバーに生命力を持たせるためにダイヤモンド・グリスとよばれる自動車のメタリック塗装に使われる金属系塗料をスライムに混入。マジック・リバーの微妙な流れが目立ち、あたかも生きているかのように見せることに成功した。

## ■現代のニューヨークの歴史を露わにさせた ユニークなセット

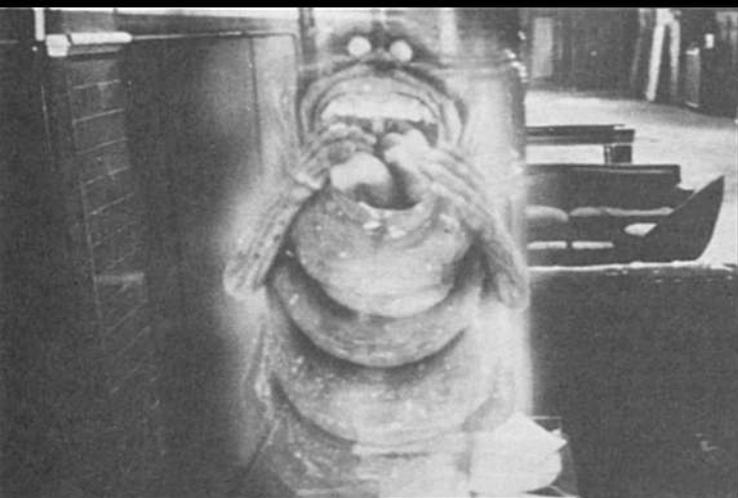
「ゴーストバスターズ2」の撮影は88年の11月28日にクランク・インした。混乱を避けるために、撮影の大半は早朝や深夜を狙って敢行されたが、美術のポー・ウェルチは、ゴーストバスターズのハイ・テク装備と、ニューヨーク市を対比させるためにわざわざ古い建物を、そのロケーション現場に選んだ。今は廃墟同然の税関ビルに、魔王ビーゴの美術館を、今世紀初頭に立てられた錆鉄のビルにマーレーのロフトを、さらに18世紀に掘られたバン・ホーンの地下気送管ステーションまで使った。こうして出来上がった「ゴーストバスターズ2」は、知られざるニューヨーク新名所マップと、ニューヨーカーの話題を呼んだ。

## ■バージョン・アップされたエクト1

前作で活躍したゴーストバスターズ御用達のハイテク装甲車エクト1。「エクト1」には、もちろん靈魂の構成物質といわれる「エクト・プラズム」から、その名を頂いたもの。翻訳すれば「人魂1号」とでも言おうか? そのエクト1は、エイクロイド扮するスタンツ博士が、59年キャデラック製救急車を改造したもの。「ゴーストバスターズ2」では、このエクト1に、バッテリーを3つ標準装備させ、宣伝用のネオン・ビルボードを搭載。エンジンも8気筒にグレード・アップさせ、その名も「エクト1A」と襲名した。

## ■ゴーストバスターズもびっくり! 心霊現象続発のロケーション

時は12月某日の丑三つ時。零下のマンハッタン・ロケでトラブルが続出。ライミス、エイクロイド、ハドソンの3人が、スライム濡れでマンホールから這い上がるというテイク12の撮影でのごと。本番OKの翌朝、メイン・カメラの故障が発見されたのが心霊事件発生のきっかけ。カメラはリース契約による完全整備品。無論、撮影時にチェックを入れるのは撮影クルーの日課でもある。その後も、バッテリーの充電不足、照明用電球が切れたり等、大作の撮影ではあり得ないトラブルが続いたのだった……。事件に直面した1人ダン・エイクロイドは語る。「最初は監督のキツイ冗談のつもりでいたんだけどね。マジだったんだよね……」。



### ■亡霊船タイタニックとドザえもん THE TITANIC AND HER DEAD GUESTS

沈没後、ようやくマンハッタンに入港した沈没船タイタニック号から、続々降りて来たのは船と運命を共にした乗客・船員のドザえもん。マンハッタン港から大魔王ビーゴの待つ美術館まで、人々を恐怖のどん底に叩き落としながら、死の行進を続ける。

### ■地下鉄の生首一家 THE BODYLESS GHOSTS IN THE OLD TUBE

マジック・リバーを流れる地下鉄を探索するゴーストバスターズの前に忽然と現れた首だけ亡者たちの霊。幽霊列車がかって引き起こした大惨事の犠牲者と、地下鉄作業員の霊が怨霊部隊と化して現れたものだ。

### ■???

全てのメカを受付ない大魔王ビーゴの世紀末軍団に、ゴーストバスターズは絶対絶命のピンチ。そこへ登場するのが、マシュマロ・マンを渡ぐ、超ビッグ・キャラクターだ。巨大にして、絶世の美女。ピンク・スライムの力を借りて、ビーゴ打倒へ旗上げた、このキャラクターに全米は大爆笑! ゴーストバスターズにとって頼もしい助っ人の登場だ。



# おいしいコメディーはどんどん

5年間、待ちに待ったパートIIが日本にやってきた。このところ続篇ばやりのアメリカ映画に賛否両論。意見はいろいろあるけれど、良いものはやはり良い。面白ければパートIIだっていいじゃないか…と、2人の意見が一致しました。片や関根勤さん。テレビのバラエティ番組で活躍する一方、「悪魔の毒々モンスター／東京へ行く」や「エリック・ザ・バイキング」などの洋画に出演し、今や高倉健に並ぶ国際派スターの地位を着々と築きつつある(?)若手コメディアンと、アイバン・ライトマン作品はもちろん、アメリカン・コメディーに超・詳しい映画評論家・筈見有弘さんが語る“日米コメディー比較論”の始まり、始まり!

## パートIのまんまで全員集合。簡単にはできないことをやるからスゴイ!

筈見 さて、1作目と比較してどうだった?

関根 僕は同じように楽しめました。僕自身コメディアンだから、「ゴーストバスターズ」のようなコメディ作品は好きなんですよね。特に「～II」は、あれだけお金をかけてコメディーをやらせてもらえるでしょう。アメリカが羨ましいですよ。

筈見 それはあるね。日本だと「しょせん喜劇だ」みたいな考えがあるから。

関根 アメリカでは大人が思い切り真面目に笑いを追求している。

筈見 アイディアは練りに練ってあったね。どうやったら前作をしのげるか、と。状況がピタッと合っていたし、5年後こうなっているもおかしくないという姿だった。しかもシガニー・ウィーバーが2作目にも出てた!

関根 あれには、僕もびっくりしました!別の女性がヒロインになって出てくるのかなと思っていたら、いきなり最初から乳母車を押して出てきて…。

筈見 シガニーはアカデミー賞にノミネートされるほどの大スターになったから、逆に余裕があって気楽に出たのかもしれない。もっと下っ端ならイメージが固定されることを嫌って、出なかったかもしれないよ。

関根 しかし、1作目と同じメンバーが全員出て来ちゃったんだから本当にすごいです。

筈見 普通2作目になると、主人公は同じでも周りが違っちゃったりするのにね。関根くんは3人の登場人物の中では誰が一番好き?

関根 ビル・マーレー。あの、いい加減で不謹慎な感じがいいな(笑)。「トツツイー」でもルームメイトの役で良い味出してた。

筈見 その分ダン・エイクロイドが地味だった。彼は「花嫁はエイリアン」ではすごく良かったんだけど。

関根 食い合った時、ビル・マーレーに負けるんでしょうね。あの不謹慎なところに…。

筈見 ハロルド・ライミスも地味だったよね。この2人は脚本も書いているから、ビルを盛り立てようという意図があるのかな。

関根 脚本を書いて、演技もするんだからすごいですよね。ハロルドは「ホルダーロード3000キロ」で監督もやってるし、それだけの力量のある人たちが集まって1本作るんだから驚きですよ。

筈見 そうね、「～I」の時に監督が言っていたけど、脚本は皆でわいわいディスカッションしたものをまとめただけだった。それに5年前から比べると皆伸びてるよね。リック・モラニスだって、今では主役を張れるほど力がついた。しかし、全員太ったね。丸くなった感じがする。

関根 年をとった感じがします。シガニーもおばさんになってしまった。

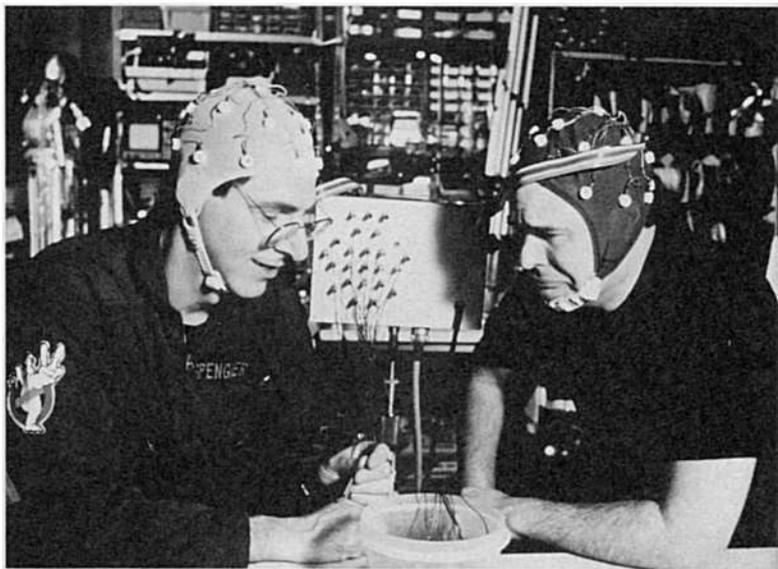
筈見 好きなシーンは、どこかな?

関根 3人の会話のやりとりですね。キャラクターが面白いことももちろんあるけど、“間”の使い方が実にうまい。感嘆してしまいましたよ。

筈見 コメディーにおける“間”は、普通の演技の“間”と違うの

かな?

関根 そんなに違いはありませんが、「ゴースト～」の人たちは基礎的なことが折り込んであって素晴らしいと思います。日本もアメリカもそういうところは同じなんだあって。彼らはすごく自然体なんですよね。画面の中で演じてないように見えるんです。あの域に達するまでは大変ですよ。



# 輸入して、日米貿易摩擦をなくしませう。

## 日本版にリメイクしたら、邦画界の重鎮が揃ってしまうからスゴイ！

答見 前作でもそうだったけど、ロサンゼルスでもシカゴでもなくて、N.Y.の特性を十二分に生かしているね。地下鉄の話やタイタニック号の話も実際にあった話でしょ。ロケも丹念にやっていると思う。

関根 そうですね。

答見 前作のマシュマロマンに代って、今回は自由の女神が登場している。しかし、彼女は良い方のキャラクターになるのは問題があるな。悪いキャラクターなら意外性があるって面白いのに。

関根 大魔神みたいだね。とはいえ、自由の女神は汚してはいけない存在なのかな。

答見 アイディアはいいけど、自由の女神は雰囲気自体が堅いから色々出来ないよ。この作品の続編だって、N.Y.でパートIIIをやるなら限界があるよね。当初、原案は宇宙を設定として考えていたらしいが…。次は海外版かな？東京とか…。

関根 日本には外人の知らない、ろくろ首とか、カラ傘お化けとかあるから、発展性がありますよ。

答見 それは面白いね。一つ目小僧とかも良さそうだ。そのアイデアいいね。今のパターンでやっていくと同じお化けしか出ないもんね、新鮮さがないよ。

関根 ふわふわしたものばかりでしょう？でも、日本のお化けみたいなキャラクターが出ると笑えますよ。科学者が日本のお化け退治を計算したら、風土が違うから従来のビームは駄目だとかアクセシビリティが発生して。

答見 ところで「ゴースト〜」を日本でやるとしたら、どんなキャスティングになると思う？

関根 そうですね…シブ好みで決めるならビルは勝新太郎さんがいいな。

答見 彼はコメディイもいけるからね。

関根 若い女の子のウケを狙うなら南原くん（ウッチャンナンちゃん）もいいんじゃないですか。

答見 そう言えば、彼はビルと顔付きがよく似ている（笑）。

関根 芸風もよく似ていますよ。荒々しくて。

答見 だとしたら、リックは関根くんが演つたらいいんじゃないの？

関根 そうですか。僕は「〜I」を見た時、山口良一くんが似合いそうだったけど。

答見 「オレたちひょうきん族」のメンバーがパロディーで演つていたら、どんな顔ふれになるだろう。

関根 ウーム…やっぱり、ビルはビートたけしさんかなあ。いや、西川のりおさんという手もありますよ。

答見 のりおの小うるさいところが合いそうだね（笑）。となると、シガニーの役は…。

関根 やっぱ山田邦子さんでしょう。で、明石家さんまさんがダンの役。

答見 山田邦子はアニー・ボッツの役も似合いそうだけどね。でもこの面々なら、やっぱりビルはたけしが演らないと後がウルサイと思うよ（笑）。

関根 かもしれません（笑）。じゃあ、さんまさんはハロルドの方に回ってもらって、ダンはのりおさんをお願いします。さんまさんは、ハロルドに顔も似ているから適役かもしれませんよ。

答見 片岡鶴太郎には、何を演ってもらおう？

関根 鶴太郎さんは思い切って黒人役に挑戦してもらって（笑）アニー・ハドソン。リックはラサール石井さんがいいんじゃないですか？

答見 すると悪役は横沢彪さん（「ひょうきん族」のザンゲ室に登場していたフジテレビのプロデューサー）かな。

関根 そうですね、大魔王は横沢さんにびつたりだと思います（笑）。

答見 アハハハ、何となく似合いそうだ。

関根 でも、バシッと決めるなら大魔王の役は三國連太郎さんがいいな。

答見 ウン、迫力がありそうだ。

関根 もし、僕がキャスティングするなら、ビルは山崎努さん、ダンは津川雅彦さん、ハロルドは歌舞伎界から松本幸四郎さんを招いて…あれ？これじゃあ「利久」の配役になっちゃうかな（笑）。

答見 シガニーは？

関根 そうだなあ、岩下志麻さんと少し重苦しい感じになるから、池波志乃さんあたりが良さそうですね。アニー・ハドソンは演技派で押したいので、石橋蓮司さんがいい。

答見 ナルホド。

関根 僕はああいふ感じの役者が好きなんです。石橋さんは脇に回ると、すごくいい味を出してくれる名優だと思いますよ。で、大魔王を三國さんで決めてもらう。

答見 なんだか凄い映画になりそうだ（笑）。



## アメリカン・コメディは作り手が楽しんでしまうからスゴイ!

答見 あなたの話を聞いていると、ずい分映画を観ているのが分かるよ。小堀一機さんと一緒に観に行くんでしょ?仲間うちでは一番見ているんじゃないですか?

関根 …だと思えます。

答見 何でも観るわけ?やっぱりコメディが多いのかな?

関根 一応何でも観ますね。ヨーロッパの作品は少ないけど。でもアメリカのエンターテインメント作品、いわゆる娯楽ものは全部チェックしています。

答見 それは勉強のためですか?

関根 ええ、勉強のためでもあります。良い作品は数々あるけど、その中ではコメディが一番、映画館を出た時、余韻が残っているんですよ。

答見 ナルホド。日本人で外国映画の喜劇に出ている人って関根くんくらいだよ。シリアスな映画は別として…。今度出演したのは「エリック・ザ・バイキング」でしたね。やっぱり日本とアメリカでは作り方が違うわけ?

関根 いや、僕は日本のコメディ映画には出たことがないから、微妙な違いはよく分からないんです。

答見 「エリック・ザ・バイキング」はどうだった?

関根 すごくノリが良かったですよ。監督がすごく明るくって、役者もやる人だったから、俳優の気持ち分かるんですね。俳優をのせるのがうまいんです。

答見 遊び感覚の映画かな?

関根 そうですね。

答見 「エリック〜」は「モンティ・パイソン」風な仕上がりですか?

関根 そうではないですね。もっと押さえていますよ。「モンティ〜」はどちらかといえば非日常の世界を描いてるでしょう?「エリック〜」は全世界配給だから、もう少し日常によっていますね。

答見 しかし日本ではアメリカン・コメディの受けとられ方に大きな差異があると思う。最近はずつづつ馴染み始めてきたけど、アメリカではヒットしている作品なのに日本で不入りなのはどうして?って作品が多かった。

関根 日本人には「わび」「さび」みたいなものがあって、ハードにくる



お笑いを嫌がるんですよ。でも最近では(もう終わっちゃったけど)テレビの「ひょうきん族」みたいな番組があって、ナンセンスな作品をやってきているから、受け手側も変わるんじゃないのかなあ。「ピンク・パンサー」シリーズは当たったんでしょう?

答見 1作目だけね。後はそれなりですよ。あの辺の笑いは、こちらではうけないから。

関根 そうですね。この前、女の子に「コメディがどうしてウケないの?」って聞いたら「わからない」って答えるんです。他の人が笑っているのに、自分だけ笑えないから疎外感を覚えるっていうの。

答見 そうか、笑えないのか!確かにアメリカ人にはアメリカ人のギャグがあるから、彼らにしかわからないものはあるけれど、それなりに日本人だって楽しめると思っていただがな。

関根 高級なのかな?

答見 もともと「お笑い」は「お涙頂戴」より高級だっていうもんね。日本人は「笑い」にお金をかけない習慣がある。そういう意識がないせいもあるけど、笑いだけじゃ物足りなくて、プラス・アルファが欲しいんだ。テレビならお金払わないからいいんだらうけれど…。おまけに、邦画もコメディを作ろうとしないし。

関根 スタッフも演者もないからでしょう。土壌もないし…。お笑いといえばパロディしかないから、レベルが低くなるのかもしれない。





## 世界市場を狙って監督業に進出。コメディアンのはやっぱりスゴイ!

答見 関根くんが映画を撮りたいという話を聞いたけど、ホントなの?

関根 はい、自分が観たい映画を撮りたいんです。そのためには語学力が必要だと思うので、今は英語の勉強をしている。

答見 え、外国で撮るの?

関根 やっぱり、日本では限度がありますから…。技術的なことやマーケットを考えるとアメリカのスタッフで撮りたいと思うんです。でも、いきなり向こうで作るのは無理でしょう。そこで日本である程度の本篇を作って、ファンタスティック映画祭あたりに参加する。それを外国のプロデューサーに売り込む。で、キャンペーンでアメリカに売り込みに行ったら、不謹慎なインタビューをしたいんですよ。何を聞かれても答えないとか、「今日食べたハンバーグはマズかった」とか、そんな意味のないことを言ったり…。マスコミが「何だ、この監督は!」って言うようなアッパパラパーな人間を演じて見たいな(笑)。

答見 具体的にはどんな映画が撮りたいの? 「ゴースト〜」的なSF X作品かな?

関根 設定としては「大災難」みたいなものが好きですね。自分の作った状況の中で自分自身が追い詰められちゃって困っている。何

をやってもうまくいかないような男の話。

答見 俳優でいえば誰?

関根 スティーブ・マーティン。

答見 うん、日本にはいないタイプだ。

関根 彼は日本人に人気がないんです、残念ですが。それからトム・ハンクスも好きなんですけど…。

答見 トムも日本では受けてないね。どうしてかなあ。

関根 それはひとつに、日本が子供文化だからでしょう。僕は劇団を始めて、お芝居の演出もやっているんですが、一番見て欲しい層は僕と同年代くらいの人たちなんです。ところが、その年代の人たちは仕事が忙しくて余裕がない。結局、時間にゆとりのある大学生たちが観にくるわけです。それで子供向けにならざるを得ない。確かに日本は経済的にリッチにはなったけど、芸術や娯楽を楽しむ余裕がないんじゃないですか。

答見 そうね、日本人はお金には不自由していないけど精神的豊かさに欠けている。向こうの人たちは、仕事の後に芸術の話や映画の話を楽しんでいるのに。

関根 日本のサラリーマンのアフター5といったら、せいぜい飲み屋で野球とかゴルフの話をするくらい。中には仕事が終わっても、仕事の話をしている人もいますし…。

答見 彼らには先入観があるのかな。映画は子供のものだという。

関根 人生を語っている有意義な作品だってあるのにね。それでも最近では、ミニシアターが頑張っているお陰で大人のファンも定着してきているから、昔に比べたらいくらかマシになったかもしれません。

答見 現在のそういう状況を打破するためにも、映画監督・関根くんに期待しますよ。

関根 はい、劇団を始めたのはその第一歩ですから。頑張りますよ。

〈構成：吉田薫＋中野陽子〉









**〈スタッフ〉**  
 監督……………アイバン・ライトマン  
 脚本……………ハロルド・ライミス&ダン・エイクロイド  
 制作……………アイバン・ライトマン  
 制作総指揮……………バーニー・プリルスタイン / ジョー・メジャック / マイケル・C・グロス  
 撮影……………マイケル・チャップマン  
 プロダクション・デザイナー……………ポー・ウェルチ  
 編集……………シェルドン・カーン A. C. E. / ドン・キャンバーン A. C. E.  
 アソシエイト・プロデューサー……………シェルドン・カーン / ゴードン・ウェッブ  
 特殊視覚効果スーパーバイザー……………デニス・ミュレン A. S. C.  
 衣装デザイン……………グロリア・グresham  
 音楽……………ランディ・エデルマン

**〈キャスト〉**  
 ビーター・ベンクマン博士……………ビル・マーレー  
 レイモンド・スタutz博士……………ダン・エイクロイド  
 ティナ・バレット……………シガニー・ウィーバー  
 イゴン・スベングラ博士……………ハロルド・ライミス  
 ルイス・タリ……………リック・モラニス  
 ウィンストン・セッドモア……………アーニー・ハドソン  
 ジャネン・メルニッツ……………アーニー・ポッツ  
 ヤノシュ・ポーハ……………ビーター・マクニコル  
 裁判長……………ハリス・ユリン  
 ニューヨーク市長……………ティビッド・マーキュリーズ  
 ハードメイヤー……………カート・フラー  
 検察官……………ジャネット・マゴリン  
 ビーゴ……………ウィルヘルム・フォン・ホンブルグ  
 オスカー(二役)……………ウィリアム・T・デュッセルドルフ / ヘンリー・T・デュッセルドルフ二世  
 市長部下アマン……………ボビー・バレスフォード・ブラウン

**〈STAFF〉**  
 Directed by……………IVAN REITMAN  
 Written by……………HAROLD RAMIS and DAN AYKROYD  
 Produced by……………IVAN REITMAN  
 Executive Producers……………BERNIE BRILLSTEIN / JOE MEDJUCK / MICHAEL C. GROSS  
 Director of Photography……………MICHAEL CHAPMAN  
 Production Designer……………BO WELCH  
 Edited by……………SHELDON KAHN, A. C. E. / DONN CAMBERN, A. C. E.  
 Associate Producers……………SHELDON KAHN / GORDON WEBB  
 Visual Effects Supervisor……………DENNIS MUREN, A. S. C.  
 Costumes Designed by……………GLORIA GRESHAM  
 Music by……………RANDY EDELMAN

**〈CAST〉**  
 Dr. Peter Venkman……………BILL MURRAY  
 Dr. Raymond Stantz……………DAN AYKROYD  
 Dana Barrett……………SIGOURNEY WEAVER  
 Dr. Egon Spengler……………HAROLD RAMIS  
 Louis Tully……………RICK MORANIS  
 Winston Zeddemore……………ERNIE HUDSON  
 Janine Melnitz……………ANNIE POTTS  
 Janosz Poha……………PETER MacNICOL  
 The Judge……………HARRIS YULIN  
 The Mayor of NY……………DAVID MARGULIES  
 Hardemeyer……………KURT FULLER  
 The Prosecutor……………JANET MARGOLIN  
 Vigo……………WILHELM VON HOMBURG  
 Baby Oscar……………WILLIAM T. DEUTSCHENDORF / HENRY J. DEUTSCHENDORF, II  
 Mayor's Doorman……………BOBBY BARESFORD BROWN



♪  
**スーパー・グッズがいるときは、  
 みんなで呼ぼう**  
**ゴースト・バスターズ!**  
 「ゴースト・バスターズ2」キャラクター商品通信販売

申込締切日  
 平成2年  
**1/20**

テレホンカード 3枚  
 下 数 1枚 } のセット注文受承ります。  
 きんちやく 1枚  
 価格 5,300円(消費税・送料込み)  
 ●申込み方法 郵便振替の払込用紙(郵便局にあります)表面に住所・氏名・電話番号を、裏面通信欄には  
 "『ゴーストバスターズ2』商品希望"とご記入の上、郵便局よりご送金下さい。  
 ●郵便振込先 加入者名: 松竹株式会社事業部 口座番号: 東京4-255000  
 ※ご注文戴いてから商品がお手元に届くまで約2~4週間程かかりますのでご了承ください。

〒104 東京都中央区築地1-13-5 電話03(542)5551  
 松竹株式会社 事業部商品課 通信販売係



どんどんどん、あなたのテレビが、  
どんどんどん、面白くなる。WAVE。



これだけでもWAVE  
(AVシステムベース)

"GHOSTBUSTERS II"  
From Columbia Pictures.  
©1989 Columbia Pictures Industries, Inc. All Rights Reserved.



WAVEをつなげば、テレビがもっと面白くなる。  
その中心はAVシステムベース  
(AVコントロールセンター+CD/CDV/LDコンパチブルプレーヤー)。

大画面テレビもいいけれど、それだけでは物足りない。こんどのWAVEは、テレビをそじて人を興奮させる。今あるテレビにWAVEを接続すれば、①CD・CDV・LD 5種類の光ディスクがすべてOK。②デジタルディレイ対応のドルビーサラウンド等、4つのサラウンド。③映画・スポーツ・コンサート等、シーンに適した音場を一発セッティング。④操作は画面を見ながら楽しく簡単に。⑤映像とサウンドを別々のソースから自在にドッキング。さらにオプションを加えれば、⑥+グラフィコで好き勝手サウンドメイキング。⑦+マイクミキシングアンプで、キーコントロールやデジタルエコー等カラオケも多芸多才。⑧+カセットデッキで賢いテープ編集。●そのほかにもアイデア次第で面白さどどん広がるWAVE。●65W+65Wハイパワーアンプ内蔵●バーチカルツイン方式14cm 2ウェイ3スピーカー●S映像端子ほか豊富なAV入出力端子

WAVE T17. お求めやすくなって180,000円(税別・AVシステムベースとスピーカーの組合せ価格) AVシステムベースCL-X717 145,000円(税別・AVコントロールセンター+コンパチブルプレーヤーの一体価格/リモコン付) スピーカーS-X717T-LR 35,000円(税別・2台1組) \*サラウンドスピーカーS-X9-LR(オプション) 標準価格14,500円(税別・2台1組)



- 写真中のオプション
- カセットデッキ CT-X717WR 標準価格34,800円(税別)
  - VHS HQ 録画 VTR VH-X9 標準価格108,000円(税別)
  - 10+10素子電子スベアグラフィコ GR-X717 標準価格29,800円(税別)
  - マイクミキシングアンプ MA-X9 標準価格39,800円(税別)
  - ローボードラック B-X9 標準価格42,000円(税別)
  - スピーカースタンド CP-X9(2台1組) 標準価格16,000円(税別)
  - 29型液晶 AVディスプレイ SD-29PRO Z 標準価格228,300円(税別)



ここまでできるWAVE  
(+オプションのシステムアップ例)

A dreamlike Audio Visual Life you've been waiting for. The ultimate entertainment experience. A system equipped to handle every desire, yet amazingly simple to operate. Your intelligent friend. Laser System Wave. From Pioneer.

レーザーシステム

WAVE

●LDのマークは、レーザービームビデオディスクの統一マークです。●LaserDiscは、パナソニックの登録商標です。●ドルビー及びDolby Digitalは、ドルビー研究所の登録商標です。●あなたが録画または録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。パイオニア株式会社

**"WHO YOU GONNA CALL?"  
"GHOSTBUSTERS!"**



**GH****STBUSTERS II**

**THIS FILE WAS PROVIDED BY**



**SPOOKCENTRAL.TK**